



# 第63回 日本神経学会学術大会

2022年 5月18日(水) ▶ 21日(土)

大会長：服部信孝 順天堂大学大学院医学研究科神経学 教授 会場：東京国際フォーラム

Perspective of Neurology in a centenarian society

幸福100年社会における脳神経内科の展望

～AI技術との共存に向けて～

## 講演情報

一般演題口演セッション

### [O-40] 一般演題口演セッション40

2022年5月21日(土) 10:15 ~ 11:45 第04会場 (東京国際フォーラム Bブロック 7F ホールB7 2)

座長:橋本 弘行(大阪労災病院脳卒中・脳神経内科)

#### [O-40-4] 植え込み型心電計を留置したESUS患者において、PACの頻度はAF検出率に関連する

島田 勇毅<sup>1</sup>, 藤堂 謙一<sup>1</sup>, 土井尻 遼介<sup>2</sup>, 山崎 英一<sup>3</sup>, 園田 和隆<sup>4</sup>, 高下 純平<sup>5</sup>, 岩田 智則<sup>6</sup>, 上野 祐司<sup>7</sup>, 山上 宏<sup>8</sup>, 権 泰史<sup>1</sup>, 岡崎 周平<sup>1</sup>, 佐々木 勉<sup>1</sup>, 望月 秀樹<sup>1</sup>

(1.大阪大学大学院医学系研究科 神経内科学, 2.岩手県立中央病院 脳神経内科, 3.横浜新都市脳神経外科病院 脳神経内科・血管内治療科, 4.済生会福岡総合病院 脳神経内科, 5.国立循環器病研究センター 脳血管内科, 6.東海大学 脳神経内科, 7.順天堂大学 脳神経内科, 8.国立大阪医療センター 脳卒中内科)

【目的】上室性期外収縮 (premature atrial contraction; PAC) の頻度と新規の心房細動 (atrial fibrillation; AF) の発生との関連については複数の報告がある。本研究は、PAC頻度と新規AFの発生率との関連について更に詳細に調査することを目的とした。【方法】2016年10月から2020年9月までに植込み型心電計(implantable cardiac monitor: ICM)を留置した原因不明脳梗塞症例を対象とした多施設後ろ向き観察研究(CRYPTON-ICM)に登録された417例のうち、Holter心電図計でPAC回数を計測できた389例を対象とした。Holter心電図計でのPAC回数を≤200回/日(L群)と201-500回/日(M群)、≥501回/日(H群)の3群に分け、AF発生率との関連を評価した。【結果】389例のうち、AF発生を確認した症例は121例(31.1%)であった。3群間(以下L/M/H群の順に記載)で、性別(男性：64%/62%/64%)、高血圧(58%/62%/64%)、糖尿病(21%/22%/18%)、心不全の既往歴(2%/5%/5%)、左房径(中央値35mm [IQR 31-39]/37 [32-42.5]/36 [31.1-41])には関連は見られなかった。PAC頻度が多い症例では年齢が高く(65歳 [56-74]/74 [70.8-79.3]/76 [72-81], p<0.01)、CHADS<sub>2</sub>スコアが高値であった。(3 [2-4]/3 [3-4]/4 [3-4], p<0.01)。PAC頻度が多いほどAFの発生率は高く (23%vs45%vs60%, p for trend < 0.001)、年齢、高血圧症・糖尿病・心不全既往の有無を調整因子として行ったCox比例ハザードモデルでは、L群に対するAF検出のハザード比はM群2.02 (95%CI 1.19-3.43, p=0.0096)、H群3.08 (95%CI 1.98-4.79, p<0.0001)であった。【結論】Holter心電図でのPAC回数が多いほど、植込み型心電計でのAF検出率が高かった。